

活動テーマ

「私たちの未来に向けて、知ろう、つながろう、広げよう」

実践事例について

愛北小の子どもたちは、周りの豊かな自然や環境を守ろうとする地域の人たちや施設とつながって体験活動を行ったり、地域の福祉施設と協力して学習したりしている。今年度はびわ湖放送のメディアリテラシー事業とタイアップし、環境についてのCM作りを体験した。様々な体験を元に、自分の生活をふり返り家庭でも実践できる活動へと取組を広げている。

1 学校環境

本校は、鈴鹿の山々を背にし、田畑や果樹園の広がる農村地帯に位置する。近くに湖東三山の一つ「百済寺」があり、歴史と豊かな自然に囲まれた学校である。

地域の産業は兼業農家が多く、地域の地形や気候を生かした、ぶどうや梨等の果樹栽培が盛んに行われており、本校児童もその栽培の一端を、実際に畑に行き、学習させてもらっている。

また、愛東地区が発祥となった「菜の花エコプロジェクト」は全国的にも有名である。環境に配慮しながら安全で安心な農作物を作る「環境こだわり農業」などの推進に力が注がれている。現在では、あいとうエコプラザ「菜の花館」を拠点として、資源循環型の地域づくりが活発に進められている。

2 実践事例

(1) 全校 恵美須溜での自然学習、ごみ回収活動

全校児童が縦割り班で校区にある恵美須溜まで歩く「はとのご遠足」を実施した。これは、学校から約2km離れた恵美須溜の畔で、異年齢交流や環境に関する学習、清掃活動をするもので、具体的には

- ① 恵美須溜についてお話を聞く活動
- ② 散乱ごみ回収活動

を行った。

①については、「恵美須溜の環境保全」や「恵美須溜を訪れる水鳥」についてお話を聞いた。

②の活動は、ため池の喫水域を周回しながら、釣り糸や釣り針、空き缶やビニール袋などを回収するもので「子どもたちが掃除をするようになって水鳥が釣り糸や釣り針で命を落とすことが少なくなった。」との、地域の方の感謝の声にも支えられて、意欲的に取り組んでいた。



また、びわこの日には全校で校庭の除草作業に取り組んだ。



(2) 学年の主な活動

ア 3年生 びわ湖の池のカワバタモロコ飼育

校地内にある「びわ湖の池」で、かつて西日本各地で生息していたが現在東近江で2カ所だけの生息地となった固有種であるカワバタモロコを飼育している。近年アメリカザリガニが増え、カワバタモロコにとって環境が悪化している。そこで、よい環境の中でカワバタモロコを生育させるため、池の水を抜き、カワバタモロコをいったん水槽に移し、ザリガニ等を駆除した後、来春にカワバタモロコのみが生育する池にしようとしている。



イ 4年生 梨栽培と観察

地域の梨農家の方から、梨の木を借り受け、児童が受粉を体験し、花や実の観察、実験、摘果等を行った。また、果実の収穫は近隣の幼稚園、保育園児との交流でも行った。



ウ 6年生 ケナフ栽培と環境CM制作

6年生は、地球的規模の環境問題について学習した。特に大気浄化に効果のあるケナフを栽培し、12月に親子活動で紙漉をした。漉いた紙が卒業証書となる。また、1月には、幼稚園児、保育園児との紙漉をし、交流を深めている。



また、民放連メディアリテラシー活動助成事業の一つとして、びわ湖放送とタイアップし、『守ろう！環境』をテーマにしたCM制作に取り組んだ。3班に分かれ、それぞれ「ポイ捨て防止」「自然保護」「ムダ使い防止」をテーマに、絵コンテから、音響、カメラワークなどを自分たちで考えて制作した。保護者や地域の方へ向けての発表会も行った。CMは3月まで放送され、地域への発信と同時に、自分自身の環境保全への意識も高まっている。



(3) エコ委員会の活動

エコ委員会では、全校にエコ活動呼びかけ、年間を通して、中休み・昼休み中の節電呼びかけなど、自主的な点検活動を行い、全校にエコ意識を高めてもらえるよう、はたらきかけを行った。

また、全校のみんなに協力してもらえるよう、各学年の教室にペットボトルキャップ入れの箱を置いて収集を呼びかけた。集めたペットボトルキャップは、地域の福祉施設「あいとう和楽」に寄付し、福祉活動に役立ててもらっている。ペットボトルキャップの収集後の流れや、どのように活用されているかをお聞きし、それを委員会から全校に伝え、さらなるエコへの意識を高めるようにした。



3 成果と課題

それぞれの活動が児童に浸透しているため今までの活動を知る6年生の子どもたちが4月から主体的に活動を進めていくことができる。その活動が次年度の6年生への興味、関心を高めることにつながっている。また学習の中や家庭生活の中での会話などを通して、子どもたち自身が環境に目を向けることや省エネ省資源を意識し、自分たちの手で実践していこうという思いにつながっている。今後も深化させ、よりよい体験活動を探っていきたい。「エコな暮らし」は、ESDにつながり、これからの未来に生きる子どもたちには必要不可欠な学びである。今年度の活動をふり返り、子どもたちとともに課題を明らかにし、次年度に生かしていきたい。そして、これからの暮らしの中で、さらにPDCAサイクルを意識したより主体的な学習に努めていきたい。

学校名	東近江市立愛東北小学校
住所	東近江市百済寺本町1399番地
電話番号	0749-46-0588
E-mail	aikitasho@higashiomi.ed.jp